編集室紀行

上野千鶴子氏，看護大学院生と学びを語る：三重大学で越境企画

7月26日，三重大学にて社会学者の上野千鶴子氏を招聘した学びの時間が持たれた（三重大学大学院医学系研究科看護学専攻大学院委員会主催）。本誌51巻6号特集『学びは越境する』に，「いつかわが院生ともども上野さんと学際的に語り合う贅沢な時間が持てればと夢想している」（458頁）と寄稿された小幡光子教授の尽力により実現した企画。

前期を通し，最初の科目『看護理論』にて上野論文「〈わたし〉のメタ社会学」を精読してきた院生・卒業生30数名が上野氏を囲んだ座談会では活発な討議がなされ，学生からの「“美味しくはないけど身体に良さそう”だから，がんばって読みました」（一同爆笑）等の率直な言に上野氏が笑顔で頭を抱えられる一幕も。

受講者の大半は，専門学校卒業後5年以上の臨床経験を経てからの大学院進学者。小幡教授は「どうなるか心配していたのですが，何よりも彼女たちが生き生きしていて楽しそうに，上野さんの前でも臆せずに話していたのが嬉しかったです。後で『全然ビビってなかったね』と言ったら，『本当の上野さんの価値をわかってないから，自由に話せたのかもしれない』『私たちは学歴弱者だから，学べることがうれしいだけ』とも。教員として，学生たちを再発見した気がします。これから後半に，本論である看護理論の発表会があるので成長が楽しみです。何よりも，このような学生の実情を上野さんは直ちに把握されて，軽妙かつ温かくそして時々はピリッと厳しく応えて下さり感謝しています。本当に贅沢な時間でした」と振り返られた。

三重大学医学部看護学科研究室にて
左から，小幡光子教授（成人看護学），上野千鶴子さん，磯和勅子准教授（地域看護学）

なお，特別講演会「ケアと人権当事者主権の立場から」には200名余の聴衆が集まり，その後持たれたフリートークの座談会では，教育学部学生も飛び入り参加するなど，学際的な交流の機会が持たれた。

上野氏は，「東京大学の学生たちと比較してもゼミ生の質は遜色なく，質問も楽しく受けられました。目的を持って学ぶひとたちの強みを感じました」と語った。（編集室）

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2010

2026/09/14 01:07:02